

大阪府立大学の取組み

子育て教育系キャリア・ コラボ力育成

本事業は、ヒューマンサービス領域（特に子どもに関わる領域）のニーズを踏まえた教育カリキュラム体系や内容構築を目的としています。

具体的には、ヒューマンサービス領域実践現場からのニーズを受けて、社会福祉、心理、教育という単独学科や課程の学びの範囲を超えて、幅広く深い知識と実践を学習することで、教育や福祉、心理という自身の専門性を深く知り、コラボレーション力（他職種と協働する力のことを指し、以下「コラボ力」とする）を高め、社会的な課題を解決する力を養成することに取り組めます。実践現場に出る前の養成段階から、連携・協働教育を行うインタープロフェッショナルエデュケーション（IPE）の考えを活用しています。

主な教育カリキュラムとして、フィールド体験、海外・社会インターンシップ、コラボ演習などを設けています。

そして産業界等実践現場と協働で、研究会やシンポジウムを実施しています。



主たる達成目標・成果等

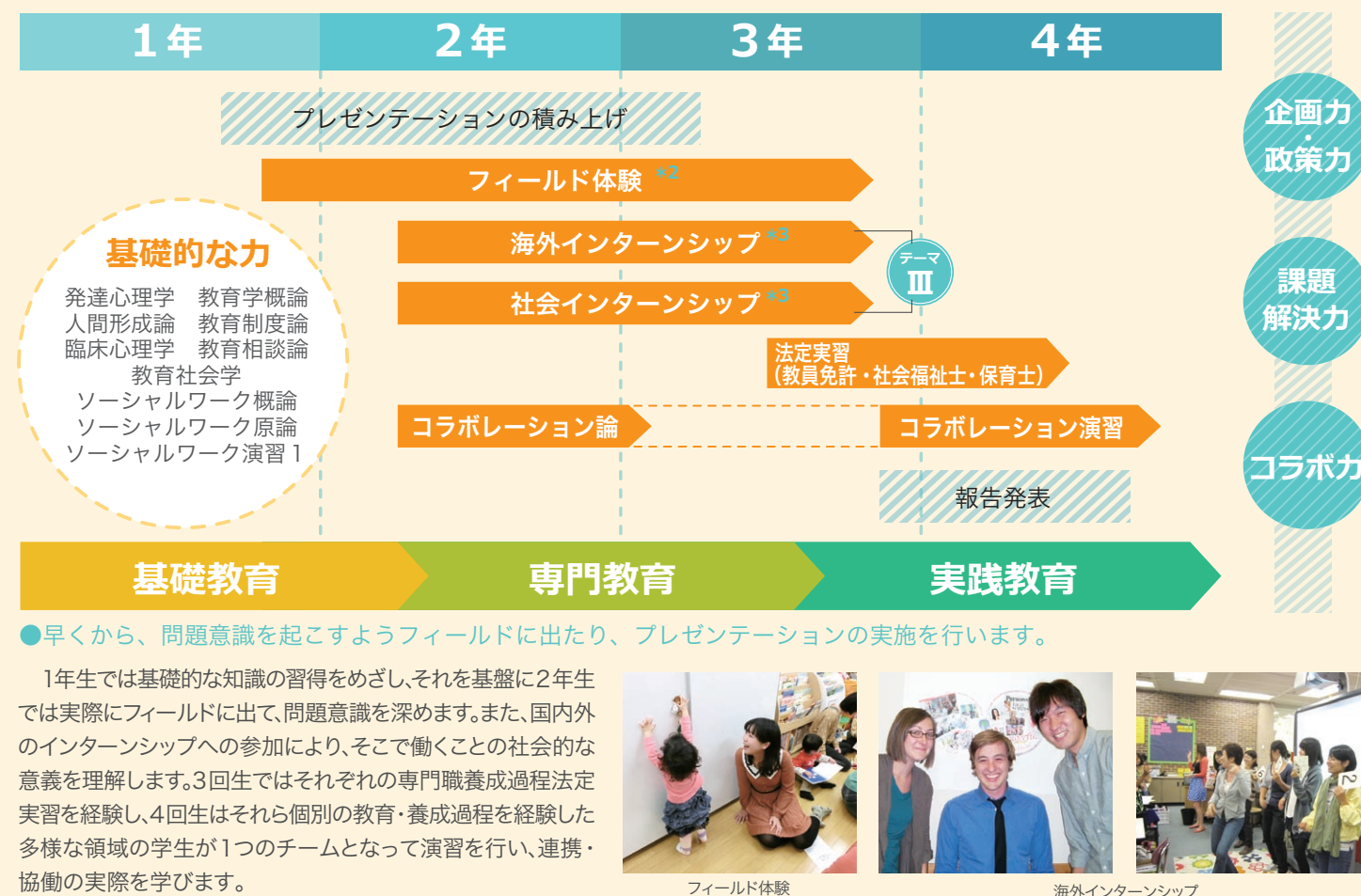
学生の自己評価

「チームで働く力、伝える力、前に踏み出す力、職業観」など社会に求められる力を高めます。

フィールド体験 海外・社会インターンシップ コラボ演習

これらの取組を実施し、企画力・政策力、課題解決力、コラボ力を向上させ、就職に向けての視野を広げ、チャレンジする姿勢を育成します。

カリキュラム



●早くから、問題意識を起こすようフィールドに出たり、プレゼンテーションの実施を行います。

1年生では基礎的な知識の習得をめざし、それを基盤に2年生では実際にフィールドに出て、問題意識を深めます。また、国内外のインターンシップへの参加により、そこで働くことの社会的な意義を理解します。3年生ではそれぞれの専門職養成過程法定実習を経験し、4年生はそれら個別の教育・養成過程を経験した多様な領域の学生が1つのチームとなって演習を行い、連携・協働の実践を学びます。



フィールド体験



海外インターンシップ



*2 ソーシャルワーク演習などで実施しています。

*3 平成25年度から内容はそのまま教育福祉インターンシップA・Bという名称に変更しました。

評価体制づくりのための効果的なICT活用

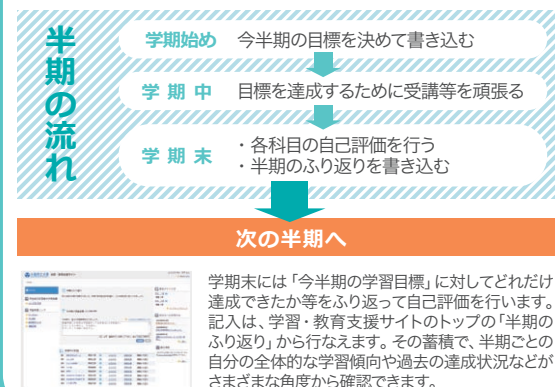
学生の学習や活動を促し、能力・資質の向上を効果的に支援するために、大阪府立大学では「学習・教育支援サイト（ポートフォリオ）」を運営しています。これは学生の学びをサポートするための「ポートフォリオ」と「授業支援システム」の2つの機能を合わせた仕組みです。

学習・教育支援サイト ポートフォリオ 4つの特徴

- 1 ポートフォリオ（学修記録）への記入や閲覧
- 2 授業支援システムを利用した、受講科目の学習
- 3 さまざまな学習コンテンツの利用
- 4 学生アドバイザーや授業担当教員への連絡 など

ポートフォリオ（学修記録）

自分の大学時代の勉学・生活を上手に管理し、何をどこまで達成できたか（＝自分の学生時代という作品）を分かりやすく把握するために活用するのが本学のポートフォリオ（学修記録）です。学期ごとに各学生が目標を設定し、学期末にふり振り返り、自己評価を行なうことを繰り返していくことで、その成長を客観的に見つめることができるようになっています。



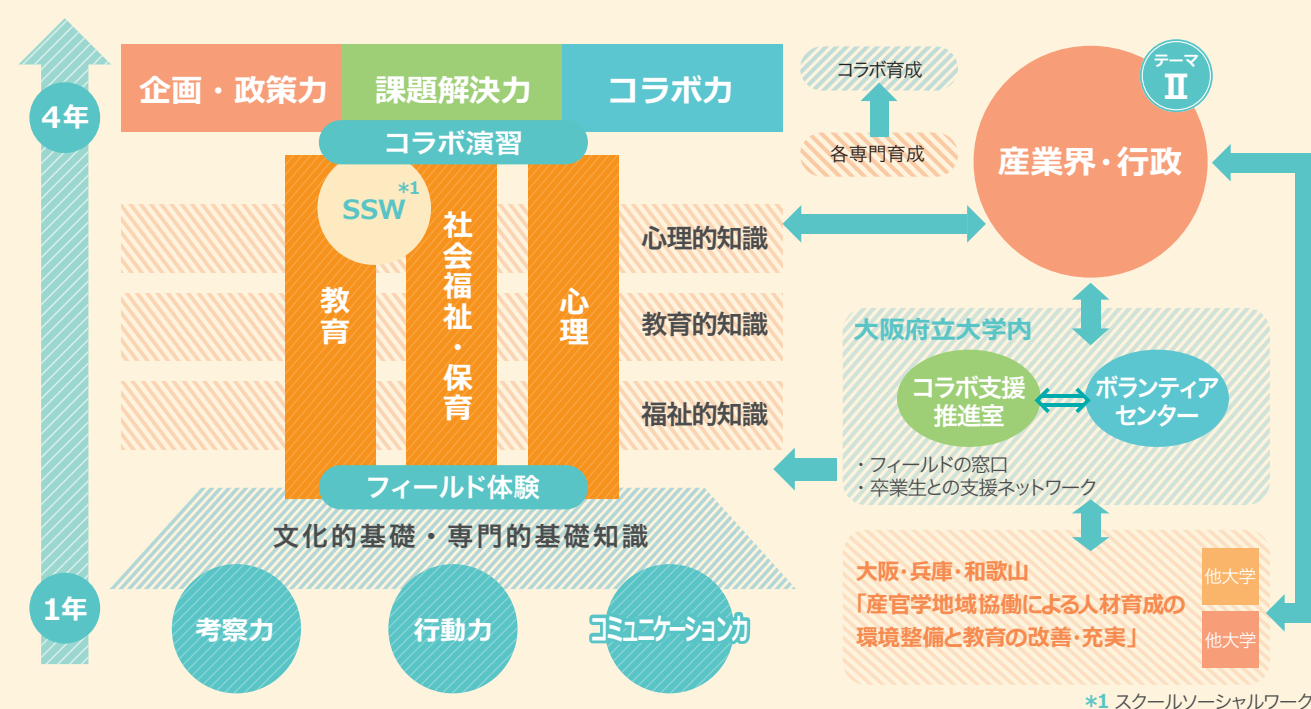
授業支援システム

授業支援システムは教材・資料のダウンロード、レポート・課題の提出、授業外の小テスト受験、アンケート、ディスカッションなどさまざまな機能を用意しており、学生の学習を効果的にサポートします。



授業科目の選択

- お知らせの確認
- 教材のダウンロード
- 小テストの回答
- アンケートの回答
- レポート・課題の提出
- コミュニケーション
- 出席の確認



*1 スクールソーシャルワーク

フィールド体験

学内授業では大学内のコミュニケーションラボラトリーを用いて、支援の基盤を形成するためのコミュニケーション技法を学びます。学外ではフィールド体験として10日間にわたり施設で直接当事者と触れ合い、支援を体験するとともに、支援者の働き方の意義や具体的方法を学びます。学外のフィールド体験先については積極的に学生に資料提供を行い、バックアップし、報告をまとめて蓄積しています。

《フィールド体験先の例》
学校、保育所、障がい者の日常生活の支援、病院ボランティア、高齢者施設、NPO等における体験、海外ボランティアなど

海外インターンシップ

子育て・教育系キャリアとして力量を高めるために、海外の実践現場、教育研究現場を見学し、授業、調査に参加します。その体験や学生同士の意見交換などを通じ、今までの学びをさらに広い視野で考察できる力を養います。例えば、アメリカのイリノイ大学の協力を得てスクールソーシャルワークのスタディツアーやハワイ大学でのソーシャルワークのスタディツアーを実施します。

学生の声

アメリカでは子どもの行動、他人とのコミュニケーションの取り方など評価しにくい項目も全て数値化し、効果を見せていたことが非常に驚きだった。

社会インターンシップ

企業や学校等機関に出向くことに加え、国や地方自治体の政策立案過程やNPOなどに対象を広げ、積極的に学生に提示し、バックアップを行います。必要に応じ、政策立案や様々な課題解決に関わる活動について、スタディツアーを企画し、実施します。

《インターンシップ先の例》
国の機関、全国規模の機関、地方自治体、NPO、学校など



先輩アドバイセミナー

対人支援領域(教育、社会福祉、心理、保健医療など)には様々な職場と仕事の仕方があります。セミナーではパラエティに富んだ立場の方々、身近な先輩やベテランの先輩からお話をお聞かせします。

ゲストスピーカーである先輩方は、公立学校の教員や、いわゆる「国家一種」にチャレンジして文部科学省に入られた方、大学入学当時から夢だった家庭裁判所調査官になられた方、自治体の施策を策定する夢を実現し仕事をしている方と、さまざまです。

学生の声

ゲストスピーカーのそれぞれの方が仕事に対する熱意、やりがいを持っているということが手に取るように伝わってきた。将来、どんな仕事につくかはまだ分からないが、現場・政策双方の話が聞けたことは進路の決定に役立つと思う。

学びの交流会

フィールド体験、コラボレーション演習、海外インターンシップ参加者が発表を行い、2年生などのこれからの意欲につなげ、見通しを持った学びになるよう、学年や体験を超えた互いの交流を積極的に行います。今後はさらに取組み参加学生を広げ、交流発表会も活発に実施します。

学生の声

多くのことを吸収する力を持っている学生の段階でコラボ的に教育をしていくことは本当に意味のあるものだと思います。これから就職して、社会の荒波にもまれる中で、きっと今と同じ感受性を持っていることは不可能だと思いますが、今と同じようにいるいるなことを敏感に感じられる人間でいたいと思います。

コラボレーション演習

教育、福祉、心理の基本を学んでいる学生が、他の専門教育を受けている学生と1つの教室や機関で学びます。お互いの専門性の違いを知ることを通じ、課題解決力、企画力、政策力、多様な力を調整するコラボレーション力を身に付けます。

例えば学校、医療機関などに、専門性の違う学生同士がチームを組んで演習を重ね、体験に出向きます。

学生の声

自分の専門領域を極めるにあたって他の領域のことを知っておくことで、どのような援助が自分に求められているか、他と異なるどのようなアプローチができるのか相対的に把握できたと感じました。